日野原重明記念「新老人の会」石川

会　報　（62号）

発行日　2025年１月１日(水)

新しい年を迎えて

事務局長　高　木　正　二

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には穏やかな新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

昨年は、震度７を記録した１月１日の令和６年能登半島地震、９月には奥能登に大規模な水害が発生し多くの方々が亡くなられるなど、石川県にとっては苦難の年でした。１年が経過した現在も行方不明の方がおられ、避難所生活を余儀なくされている方々が多数おられると伺っております。改めて被災者の方々にお見舞いを申し上げますと共に１日も早い復旧・復興を願っております。

こうした中、「新老人の会」の会員の皆様には被災地でのボランティア活動への参加や会としての義援金募金活動にご協力いただきました。敬意を表しますと共にお礼を申し上げます。

また、我が国全体でも、異常気象による高温、各地での豪雨災害、野菜や米の生育不良等による食料・物価の高騰など厳しい１年であったと感じています。

さらに世界に目を向けると、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化・激化、イスラエルとハマス・イランの戦闘の激化など平和を揺るがす事態が続いています。一方、昨年のノーベル平和賞に日本原水爆被害者団体協議会が選出されるという画期的な出来事もありました。日野原先生が希求された世界平和が一歩でも実現に向けて進むことを願ってやみません。

さて、最近「分断」という言葉をよく見聞きするようになりました。「分断」とは「一つにつながっているものを別れ別れに切り離すこと」です。

分断されると、お互いが相手のことが理解できなくなり、価値を共有することができなくなるとのことです。この様な分断は所得階層間、都市と農村、男性と女性、高齢者と若年層、正規雇用と非正規雇用と社会のいたる所で起きており、ますます深刻化しているといわれています。

この原因は、お金こそが一番重要といういわゆる「拝金主義」の横行と他者を慮る気持ちの欠如によるものではないでしょうか。ＳＮＳを利用した闇バイトによる強盗事件の多発も同様です。

日野原重明先生は、最後の著書である「生きていくあなたへ」の中で、「若者とどうつきあっていくのがいいのでしょうか？」という質問に対し、「若い人とつきあうときに、気をつけているのは、あたたかいタッチを心がける。『あなたのよさを私はもっと感じたいんですよ』という気持ちを相手へのタッチに込めることで、自然といい関係をつくっていけるのではないかと考えています。」、「あともう一つ大切なのは、自分より若い者、親しい家族、また弱い立場のものに対して、僕たちは相手を敬う気持ちをともすれば欠いてしまいがちであるということです。目上の人や年配者を敬うだけではいけません」と答えておられます。

人と接する場合には、相手を敬う気持ちを忘れず、相手の意見も充分に聞くことを心がける。このことを今年のモットーとしていきたいと思います。本年もよろしくお願いいたします。

第３回会員の集い＆昼食懇話会の開催

高　木　正　二

2024年度第３回会員の集い＆昼食懇話会が１１月２日(土)、金沢ニューグランドホテル４階「相生」で開催されました。今回は、日野原重明先生の次男の妻として、晩年の日野原先生を公私にわたって支えてこられた日野原眞紀氏をお迎えして、～家族が語る日野原重明先生～「晩年の義父と過ごして」と題して講演していただきました。より多くの方々に講演を聴いていただくため、会員以外の聴講も呼びかけ、会員２４名、非会員１８名の計４２名が参加しました。

はじめに山内ミハル世話人代表が、「最近は日野原先生に直接お会いしたことがない会員が増えてきた。そこで日野原先生の最期のお世話をしていらっしゃった日野原眞紀様に講演をお願いし、日野原先生の最期のご様子をお話しいただくことにした。最後まで講演を楽しんで欲しい。」と挨拶し、続いて日野原先生作詞・作曲の「新老人の歌」を斉唱して講演に入りました。

日野原氏は、冒頭、日野原先生のお世話をすることになった経緯、先生との相性の良さについて説明し、先生の業績よりも「日野原重明ってどんな人」ということが参加者に伝わったら、もっと身近に感じてもらえたらとってもうれしいと話され、講演は進められました。

日野原氏は、自らがｉＰｈｏｎｅで撮影した写真を中心にスライドで紹介しながら

Ⅰ．「どんな」人？（信仰のある人、耐える人…）

Ⅱ．ターニングポイント（大病、アメリカ留学…）

Ⅲ．最晩年（９０歳からの密な時間の共有…）

の順で日野原先生の性格やエピソード、先生の思想や活動の原点、最晩年の考え方や死生観について、生活を共にし濃密な時を過ごされた方にしか語り得ない内容の話をユーモアを交えて話されました。

最後に、日野原先生には後継者がいないが、次の世代のせめて医療関係者が日野原先生を知らないなどということにならないように、今の看護教育の礎をきちっと作った人なのだということを、何らかの形で伝えていきたいと話され、講演は終了しました。すばらしい講演に会場から盛大な拍手が送られました。

これまで、日野原先生の業績や教えを著書やテレビ番組等で知ることがほとんどでしたが、今回の講演では、日野原先生のお茶目な部分やスピード狂などの偉人らしからぬ側面も知ることが出来、日野原先生も生身の人間なんだなと、先生がより身近な存在になったように思います。

会場には能登半島地震の義援金募金箱が設置され、寄せられた義援金４万５千円は、１２月２日北國新聞社を通じ石川県に寄託しました。皆様に深く感謝申し上げます。

講　演：～ 家族が語る日野原重明先生 ～　「晩年の義父と過ごして」
講　師：日野原 眞 紀 氏

（講演要旨（文責：高木正二））

講演する日野原眞紀氏

私は結婚して日野原姓になりましたので、日野原先生のお世話をしたとか言われるのですが、一緒に過ごしてきたという感じです。義父・日野原先生が非常に心の広い人なので私を受け入れてくれたのだと思います。

今日は、私自身がiPhoneでプライベートに撮った写真の中から、少しご紹介しながらお話ができたらと思っています。業績がどうのということは触れずに、人間「日野原重明」ってどんな人、そのようなことが皆様に伝わったらもっと身近に感じて下さり、「新老人にまた入ってもいいかな」と思っていただければとっても嬉しいなと思っています。

「どんな人」と挙げていくと、やっぱり「信仰のある人」というのが一番なんです。父親が牧師で毎朝家族で礼拝があるし、聖書も読むと言うような家庭で育ち、キリスト教の信仰ということを公の場では出さなかったと思いますが、深い信仰心が家庭の中では中心であったといえると思います。

また、「耐える人」だと思います。京都大学医学生の時結核になり１年間ベッドで寝ていて、朝起きると熱が下がり希望が、午後になると熱が上がり絶望が、と毎日希望と絶望の日々だったとその時の苦しい思いを話してくれました。

それから、本当に「愛の人」だと思うんですね。義父の周りは本当に愛に溢れていました。ボストンの自閉症の学校では、自閉症児が劇を披露してくれたのですが、院長先生が「こんなことは院始まって以来のことだ、皆が一つのことで１時間も耐えられることはない。日野原先生はすごい人だ」と驚かれました。

それから「チャレンジ精神の人」です。義父は104歳で俳句を始めました。また、100歳を過ぎてから乗馬の体験もしました。さらに「葉っぱのフレディ」を脚本化し、１０年間公演するとともに7,000万円の資金を調達してニューヨーク・マンハッタンの劇場公演を実現しました。

また、「信念の人」でもあります。地下鉄サリン事件では、義父が院長を務める病院で廊下からチャペルまでベッドを置いて６４０人の患者すべてを治療したと称賛されましたが、建設時には無駄なスペースやお金がかかりすぎると批難される中、信念を貫いて建設を強行したのです。

それから「感謝する人」でもあります。義父は「年をとって死が秒読みになってくると、感謝という言葉が本当に若い頃使っていた感謝と今使う感謝の重さが全然違うんだよ、それで感謝という言葉を色紙に書いている」と言っていました。

また、「自分に厳しい人」、「行動と実践の人」、「器用な人」、「ユーモアのある人」、「頑固な人」、「せっかちな人」、「スピード狂」、「負けず嫌いな人」でもあります。

義父のターニングポイントとしては、まず「ウィリアム・オスラー先生との出会い」が挙げられます。聖路加国際病院が米軍に接収されていた時、図書館にオスラー先生の本があり、それをきっかけにオスラー先生の本を借り受け、この本が義父の座右の書となり、日本の医学教育の礎を築くことに繋がりました。

また、「よど号ハイジャック事件」に遭遇したことで、解放後、霊感を感じ、「これからの私の人生は誰かのために使いたい」と決心しました。最大のターニングポイントだったのだと思います。

義父の「最晩年」、出版社のインタビューで「死は怖い」と答えていましたが、亡くなる１０日か２週間くらい前に、ある親しい人との会話で、「自分が神様のもとに行く時に、誰がそこにいて、皆がどんなふうにいて、誰が自分の手を携えて天国に連れて行ってくれるのか、そういうことを想像するだけで楽しくてしょうがない。僕はその時を待っているんだ」とニコニコ顔で話しました。それが死だ、ある意味では、死は終わりではないということで、義父は死をも受容した、そして自分の中でしっかり受容して前に進むということ、これが義父の言う「keep on going」ではないかというふうに私は捉えています。

最後に、私の役割は、次の世代のせめて医療関係者がそんな人は知らないということにならないように、義父は、今の看護教育の礎を作った人なのだということを何らかの形で伝えていきたいと考えています。

≪心に残る日野原先生の言葉≫

Doctor Sunny Field

早　川　芳　子

2008年第一回「新老人の会」石川支部、日野原先生講演会の折、日野原先生が「早川浩之の内科医院」をお訪ねになりました。ドクター早川、私の母、スタッフ、そして患者さんと、先生は気さくにお話をしていらっしゃいました。クリニックの中もあちこち楽しそうに見学。当クリニックでは患者さんのために音楽会を開いたり、アロマをひっそりと香らせたりしています。それに気付かれた日野原先生は、「これはドクター早川の考えじゃないね。あなたが思いついたのですね」と、にっこり。

講演が始まってからも、「早川浩之の内科医院」の工夫や努力について、ご指摘くださり、うれしかったです。講演の折、私はMCを担当していました。講演の中で当クリニックの工夫をいくつも取り上げてくださって、その都度「ね、そうでしょう早川さん」「あれっ、どこへかくれているのですか」と、お客さまを笑わせてばかり。私が印象に残ったのは「僕のことを“日野原 Sunny Field”と紹介してください」と、おっしゃった事です。その Dr Sunny Field は好奇心のかたまりでした。そして周りの人たちを笑いにつつむ天才でした。「みなさんは、1 時間椅子に座って、ぼくの話を聞くのでしょう？　ぼくは1時間立ったままですよ」「スリッパ歩きはだめですよ」と、その都度、舞台の上手から下手へゼスチャーたっぷりの実演に会場は再び笑いの渦につつまれました。講演会場の「本多の森コンサートホール」については、詳しくお尋ねになりました。

加賀百万石の前田家に仕えた八人の家老、八家の役割りや本多の森が今日まで残った背景などをお話ししました。とても興味深そうにいろいろとお尋ねになり、お聞きになっていらっしゃいました。

舞台に出られる時間になり「続きはまたね」と。Doctor Sunny Field のお茶目さと「ね、早川さん！あれっ？どこにかくれたの？」の若々しいお声を思い出します。

今日もきっと Doctor Sunny Field のニコニコを世界中に届けていらっしゃることでしょう。

「老いを生きる」生活雑感

「新老人の会」に入会して

綱　村　淑　子

「新老人の会」の第３回会員の集いに初めてお仲間入りをさせていただきました。

日野原眞紀様の素晴らしいお話、生き生きした笑顔いっぱいの会員の皆様にお会いして、「新老人の会」に入会させていただいて本当に良かったと思っています。

昨年９月１日、山内ミハル様がお誘い下さって「新老人の会」の会員余技作品展を拝見し、すっかり魅せられて、即入会を決めました。

日野原先生のご本は２冊持っていましたが、会員の集い当日いただきました先生最後のご本「生きていくあなたへ」を感動しながら拝読しました。先生の「感謝の気持ちでキープオンゴーイング」のお言葉を肝に銘じて、できることでしたら、私も「生涯現役」で、三つのモットーを心して、少しの時間でも他人のために使

える人でありたいと願っています。

私は、かなり以前から山内ミハル様の数々のお働きを見ていつも心揺さぶられ、感謝してまいりました。私の良きお手本でいらっしゃいます。

きっと会員の皆様の中にも大勢そのような素晴らしい方々がいらっしゃると思うと、ワクワクしています。

会員の活動として、まずは「絵手紙」から始めたいと思っています。講師をはじめ先達の皆様、どうぞいろいろ教えていただきたく、よろしくお願い申し上げます。

「新老人の会」全国連絡会に参加して

山　内　ミハル

日野原重明記念「新老人の会」全国連絡会松本集会が開催され、石川からは世話人代表の山内が参加しました。

日　時：2024年１０月２６日(土)
場　所：アルピコプラザ・ホテル
参加団体：９団体（千葉、石川、信州、大阪、高知、熊本、東京、兵庫、宮城）
欠席団体：１２団体

１４：３０～１５：３０
講演:「いのち・平和・生きがい」を磨き守る」
講師：菅谷　昭氏（松本大学学長、NPO法人「いのちと平和の森」会長）

１６：００～１８：００　円卓会議

① 各団体の活動報告、新しい企画の紹介等
- 折り紙教室・たけのこ掘り(千葉)
- 散策の会・能楽鑑賞会(東京)
- 有機農作物や加工品の生産者との交流会で無農薬栽培の餅を販売(高知)
- お誕生会(年３回)、戦争を語り継ぐ会(月１回)(熊本)
- スマホ教室(神奈川)

② 現在の問題点・今後の課題
参加団体はいずれも
- 会員の高齢化
- 会員の減少

を課題として挙げており、対策を模索しているが実効性のある方策はなかなか見つからないとの意見が多く見られました。

石川でも同様であり、今後も他団体の状況を把握していきたいと考えています。

次回の連絡会は東京開催となりました。

2024年度第４回会員の集い＆昼食懇話会開催のお知らせ

第４回会員の集い＆昼食懇話会を次のとおり開催します。昨年好評だったゲーム大会を引き続き開催することにしました。誰でも参加できる簡単なゲームを予定しています。童心に返ってちょっと頭を使い、笑ってリフレッシュしませんか。多くの皆様の参加をお待ちしています。

日　時：2025年２月15日(土) 11：00～
場　所：金沢ニューグランドホテル
参加費：3,500円(昼食代を含む)

同封の返信ハガキに出欠を記入し、1月３１日(金)までに投函をお願いいたします。

川柳

(順不同)

大島恒治
温暖化俳句づくりはどうしようか

新川光子
近頃は聴き取れぬ歳と愚痴を聞く
立ち上がれ!「よいしょ」と掛け声元気だね

高木要子
教え子の同窓会誰が生徒か先生か
電車内席を譲られエッ私？

中谷茂次
あの世行き初めてなのにナビ要らず
裏金は闇バイトより闇の中
老人は師走で無くも走れない

福岡恒忠
脳トレの問題集を買い悩む
値上がりで記念切手も手離され
昼餉の間稚児のおしゃべりなかまど

高木正二
年収の壁壁はいくつあるのやら
韓国の大統領5時間天下

日々の俳句　花明り

（順序不同）

門前をぽろりと飾る冬椿
庭隅を明るく飾る石蕗（つわぶき）の花
鈴木雅夫

白鳩の羽音うるわし七五三
鵙（もず）猛る偉容を誇る御仏供杉
宮下美智子

黄葉いろ老いの彩かな山笑う
晩秋や孫らに囲まれ甘露かな
福岡恒忠

冬支度ひと雨降りて急ぎおり
ゆで卵煮込みおでんの中心に
新道和子

薄氷（うすらい）をバス無表情にふみてゆく
薄氷をふむ破利という音が好き
大島恒治

鰤起こし愛犬脅え尾を丸め
皮むきて干し柿作る初仕事
新川光子

名刹の水に映れるや照紅葉
雨音ききお茶といただく亥の子餅
本田裕子

はめ字作品

はめ字の面白さは、作る人のアイデア次第で全く違う文章が出来るところです。
風情や哀愁といった日本語の面白さを感じながら創作にチャレンジして見ませんか。多数のご応募をお待ちしています

締め切りは２月２０日　鈴木雅夫まで

次回作品募集

		き		
		い		
よ	わ	た	い	き
		わ		
		よ		

に	吾	し	死	能
祈	高	の	者	登
る	れ	ば	の	し
の	い	れ	み	ん
み	神	る	霊	災

飯田　世三

頑	住	し	朝	輪
張	民	の	市	島
る	れ	ば	の	し
復	ん	れ	盛	内
興	携	る	況	の

高木　正二

に	昔	し	彼	過
似	憧	の	氏	ぎ
る	れ	ば	の	し
後	た	れ	面	初
姿	人	る	影	恋

高木　要子

わ	は	し	う	ゆ
す	な	の	め	か
る	れ	ば	の	し
る	て	れ	香	く
な	も	る	が	も

大島　恒治

溢	子	し	記	在
れ	連	の	念	り
る	れ	ば	の	し
幸	の	れ	旅	日
せ	姿	る	行	の

福岡　恒忠

羽	時	し	父	在
織	の	の	親	り
る	れ	ば	の	し
紋	い	れ	写	日
付	服	る	真	の

飯田　世三

は	浪	し	記	た
し	漫	の	念	の
る	れ	ば	の	し
渓	っ	れ	旅	み
谷	車	る	行	は

新川　光子

捧	愛	し	信	老
ぐ	溢	の	仰	い
る	れ	ば	の	し
生	つ	れ	歩	日
命	つ	る	み	の

福岡　恒忠

尾	な	し	モ	あ
振	で	の	モ	り
る	れ	ば	の	し
愛	ば	れ	姿	日
犬	尻	る	が	の

高木　要子

夢	淡	し	か	亡
み	い	の	し	き
る	れ	ば	の	し
幻	ん	れ	想	友
影	情	る	い	懐

新川　光子

化	す	し	不	上
漲	ぐ	の	在	京
る	れ	ば	の	し
活	た	れ	故	長
気	文	る	郷	年

高木　正二

生	よ	し	老	お
き	か	の	い	ん
る	れ	ば	の	し
道	の	れ	今	の
標	辞	る	も	訓

飯田　世三

編集後記　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

幾つになっても新年を迎える気持ちはすがすがしいものです。新しい何かがまた始まるような気持ちがするからでしょうか。日野原重明先生は、「もし僕が若々しいといわれるのだとすれば、いちばんの原因は、常に新しい自分との出会いを大切に過ごしているからではないかと思います」と語られていました。

昨年暮れに日野原眞紀さんをお招きして重明先生の人柄を偲ぶお話を聞くことができたのもラッキーでした。新しい年も、皆さんキープオンゴーイング〈前に進み続けよう〉で行きましょう。　（福岡恒忠記）

次号の発行は2025年４月１日、原稿締切日は2025年２月２０日です。字数は原則800字程度でお願いします。

送付先：高木正二
〒920-3114　金沢市吉原町ヨ 190 番地
E-mail sytakagi@sea.plala.or.jp
編集責任者：世話人代表　山内ミハル
編 集 委 員：鈴木雅夫、新川光子、福岡恒忠、高木正二
印　　刷：「新老人の会」石川　事務局